

てんろ石灰

肥料登録番号: 岩手県第281号

てんろ石灰を用いて土壤pHを改良(目標pH7.5)することにより

- ①アブラナ科野菜の根こぶ病、②キュウリホモプシス根腐病、③ホウレンソウ萎凋病の被害を軽減できます。

1 アブラナ科野菜(キャベツ・ブロッコリー)根こぶ病の被害軽減!



【根こぶ病】とは?

アブラナ科野菜生産地で猛威を奮う
土壤伝染性難防除土壤病害です。

2 キュウリホモプシス根腐病の 被害軽減!



てんろ石灰を
施用

無処理

クロルピクリン
くん蒸剤区

【キュウリホモプシス根腐病】とは?

病原性糸状菌による土壤伝染性病害で感染すると
激しい萎凋症状(萎れ)を起こします。

3 ホウレンソウ萎凋病の 被害軽減!



てんろ石灰を
施用

無処理

【ホウレンソウ萎凋病】とは?

糸状菌(フザリウム菌)によっておこる病害でホウレンソウの
安定生産阻害要因として問題になっています。

供 給



JAグループ

製 造

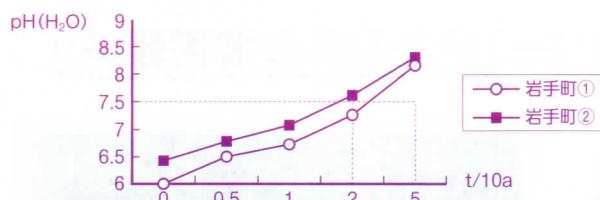


ミネックス(株)

てんろ石灰による土壤pH改良のポイント

- STEP 1** 施用量は土壤タイプと原土 pH により施用量が異なりますので、土壤分析をし、土の状態を把握します。
- STEP 2** 土壤pH7.5を改良目標に緩衝能曲線(表1)の作成し、10アール当りの施用量を決定します。
- STEP 3** 散布2週間後の土壤pHを確認し、pH7.5以下の場合は追加散布します。

〈表1. 緩衝能曲線〉



〈表2. 土壤pH経年変化〉



【注意事項】他の土壤病害では試験をしておりませんので、他作物への被害軽減効果や作物の生育に与える影響は不明です。

てんろ石灰の特徴と一般的な施用量

pHの矯正と持続効果

土壤の酸性化を改良すると共に改良効果が持続します。

微量要素の補給

石灰(カルシウム)、苦土(マグネシウム)けい酸、鉄をはじめ、りん酸、マンガン、ほう素等、多くの成分を含み、微量要素の補給効果が期待できます。

地力のアップに貢献

けい酸と微量要素の補給により地力が高まり、チッソ・りん酸・カリの肥効を高める効果が期待できます。

保証成分(%)

含有成分(%)

★豊富な成分 バランスよい供給

アルカリ分	<溶性苦土
47.0	3.0

アルカリ分	<溶性苦土	可溶性けい酸	酸化鉄	<溶性マンガン	<溶性りん酸	ほう素
48.73	3.81	14.33	28.10	1.27	2.13	300PPM

ほかに、モリブデン、亜鉛等微量

※日本肥料検定協会分析

一般的な施用量

①土壤病害の被害軽減を目的としない。

②一般的な10a当りの施用量は下記のとおりです。詳しくは作物別土壤改良基準に従って下さい。

野菜・果樹・畑作物

牧 草

水 稲

100~200kg/10a
(5袋~10袋)

100~200kg/10a
(5袋~10袋)

80~160kg/10a
(4袋~8袋)

※この肥料の利用方法に不明な点がありましたら最寄りのJAにご相談ください。

ホームページアドレス <http://www.minex.co.jp>